

経営比較分析表（令和4年度決算）

神奈川県 逗子市

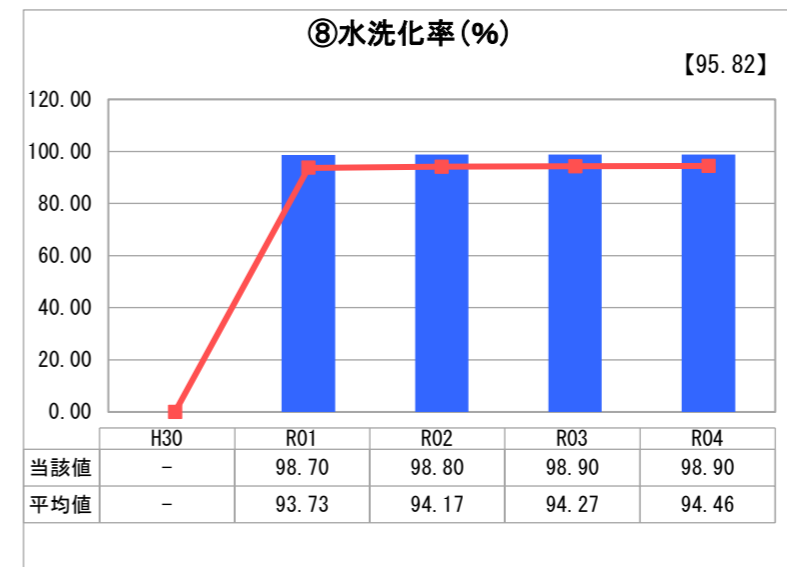
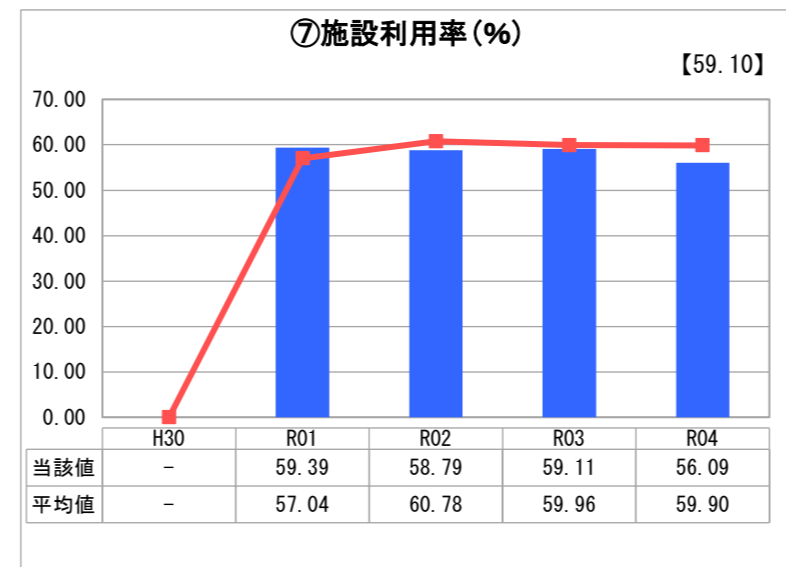
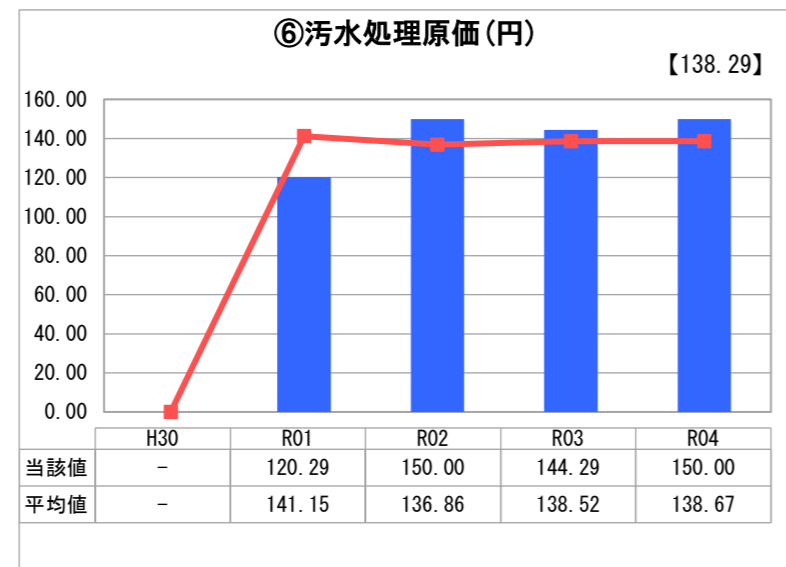
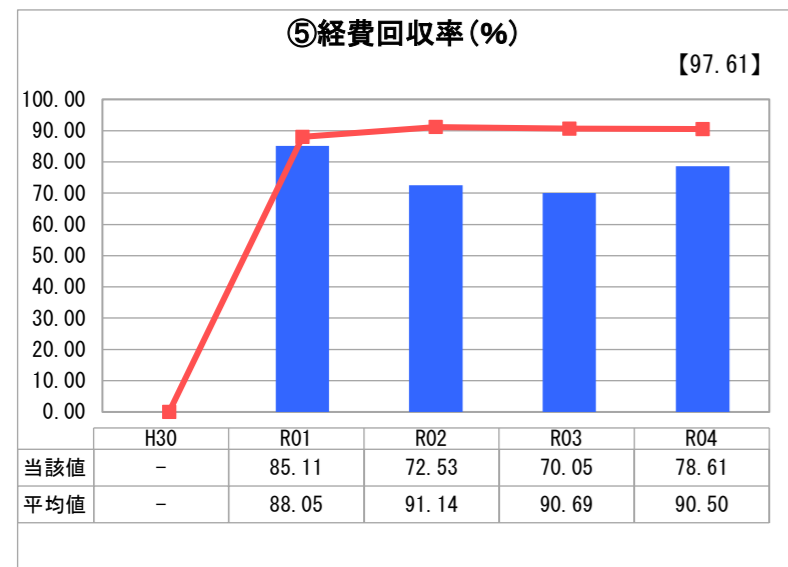
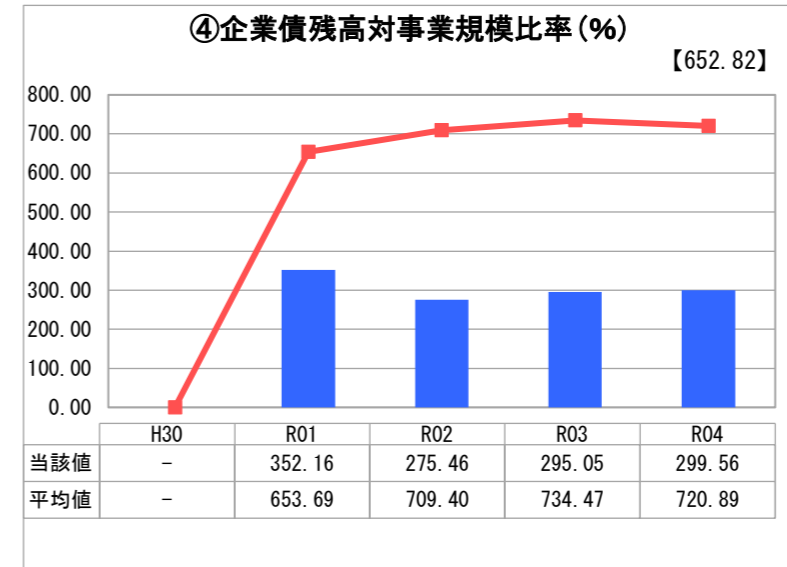
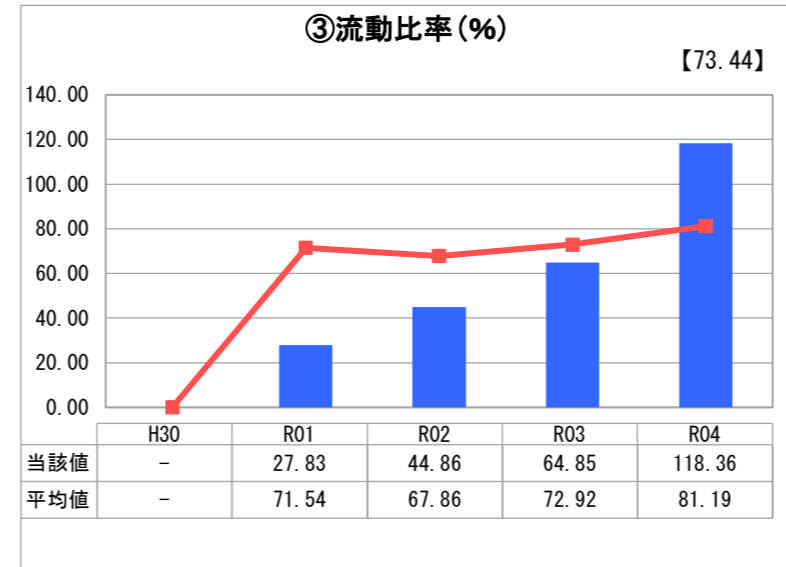
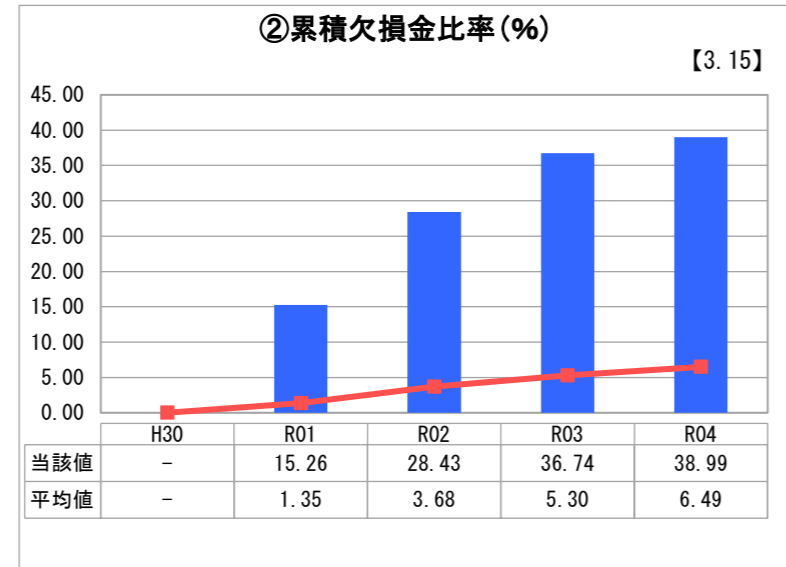
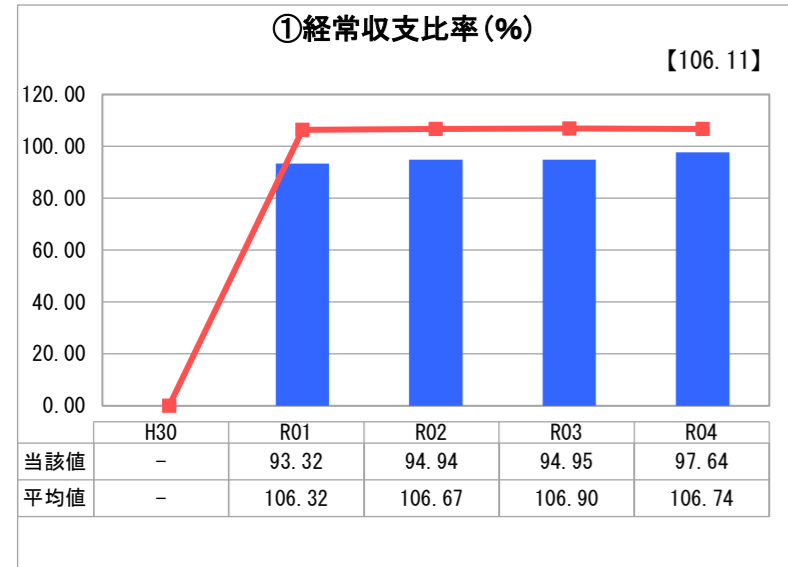
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	75.73	100.00	79.59	2,147

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
58,959	17.28	3,411.98
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
58,815	8.64	6,807.29

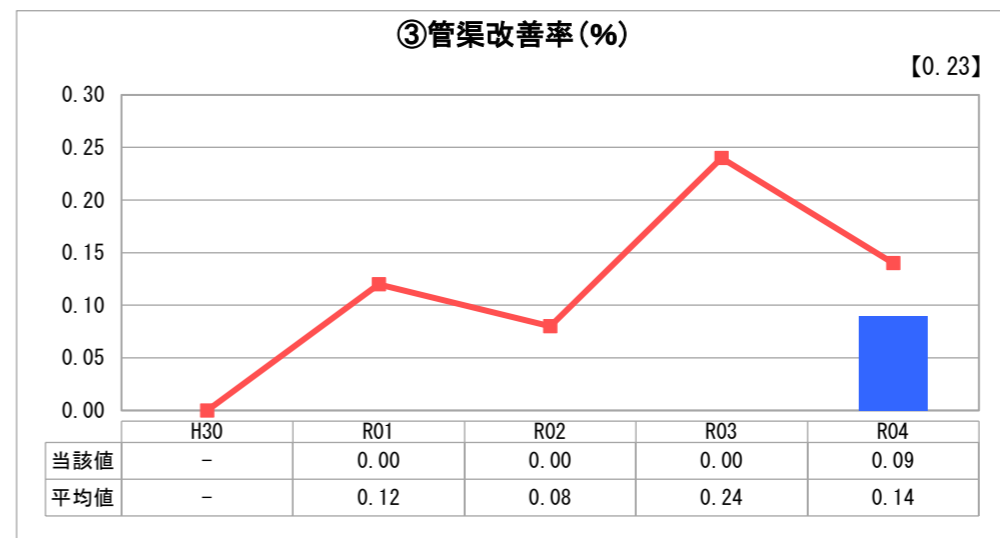
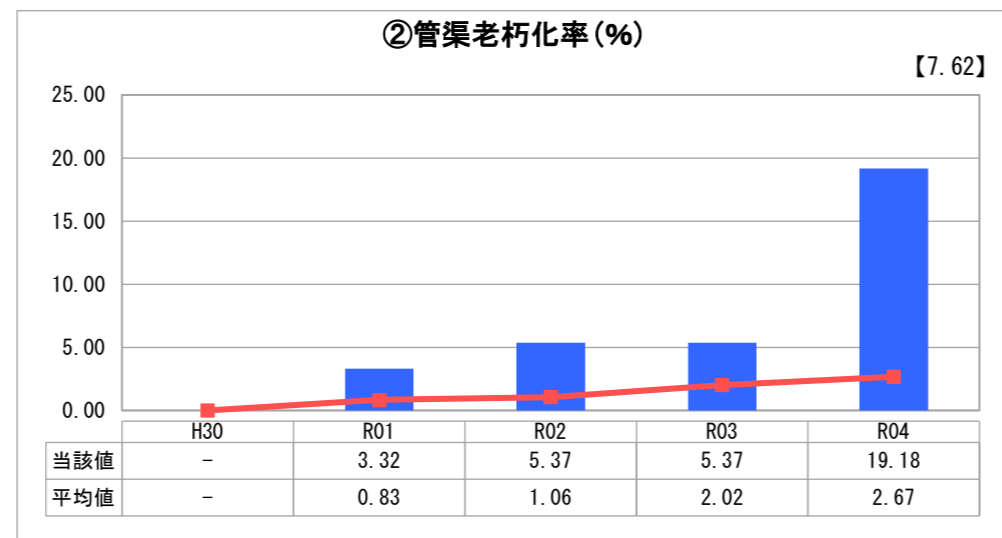
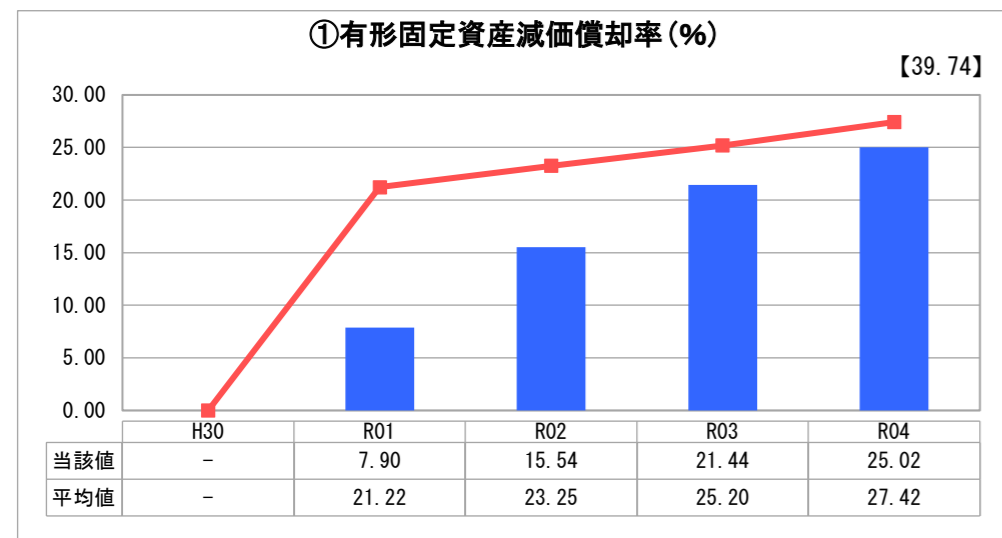
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市では、平成31年4月1日から地方公営企業法を一部適用（財務適用）し、企業会計へと移行しました。本年度は、前年度に引き続き決算で欠損金が発生したことから、経常収支比率が低く、累積欠損金比率が高くなっています。また、経費回収率においても100%を下回っていることから、汚水処理に係る費用が使用料で賄えないことを示しています。経営の改善に向け、令和4年7月1日に使用料の改定を行いました。経費回収率は若干改善したものの、電力費の高騰等により、経常収支比率は100%を超えることができませんでした。企業債残高対事業規模比率においては、普及率が100%となり維持管理を中心とした経営であることから、類似団体平均値と比較して低い傾向にあります。今後、大規模な施設更新に伴う企業債の増額が見込まれており、より厳しい経営状況となることが予測されます。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代後半に供用開始した本市においては、特に処理場の老朽化が深刻な状況になっています。また、類似団体や全国の平均値と比較すると、管渠老朽化率が高く管渠改善率が低く、老朽化した管の更新が進んでいないことを示しています。処理場、管渠ともにストックマネジメント計画等に基づいて、適切な改築・更新を行う必要があります。老朽化が進行する浄水管理センターの再整備に関しては、処理方式等の適切な手法を検討しています。

全体総括

下水道施設の老朽化が進んでいることを踏まえると、今後より厳しい経営状態で推移することが予測されます。本年度に使用料改定を行った結果を反映させ、令和2年度に策定した経営戦略を改定し、将来にわたって健全な経営を持続的に運営していくため、経営指標も参考にしながら、引き続き適正な使用料の検討及び維持管理費の確保を行ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。